

学位研究 第6号 平成9年8月 (研究ノート・資料)
〔学位授与機構研究紀要〕

リージェント大学の理念と現状

The Work of Regents College

ポーラ・E・ペイノビッチ

Paula E. PEINOVICH

森 利 枝 訳

Rie MORI

リージェント大学の理念と現状

ポーラ・E・ペイノビッチ*

森 利 枝**訳

はじめに

平成9年1月、学位授与機構は、リージェント大学 (Regents College) の学務担当副学長 (vice president for academic affairs) の任にあるポーラ・E・ペイノビッチ (Paula E. Peinovich) 博士による講演会をもった。

リージェント大学はニューヨーク州オルバニーに拠点を置く学外学位授与機関で、この機関の母体はニューヨーク州教育評議会 (The University of the State of New York) の内部に1787年に設置された評議委員会 (Board of Regents) である。この委員会の評価部門が1970年に学外学位授与機関として独立したのがリージェント大学である。このリージェント大学の活動に関しては、館昭「アメリカの学位授与機関 (リージェント大学) の仕組みと現況」(「学位研究」1号)、「アメリカにおける学外学位の展開状況」(「学位研究」2号)、橘利枝「リージェント大学の履修要件I——自由学芸学位」(「学位研究」3号) でもとりあげている。

本稿はペイノビッチ博士による、リージェント大学の活動についてその概容をまとめた講演を森が翻訳したものである。なお、翻訳にあたっては議論の流れを考慮して講演時の構成を若干変更し、また注釈を付した。 (森)

1. 活動の理念

リージェント大学は、本来、成人学生の学習に資することを主たる目的として設立された学外学位授与機関である。リージェント大学の活動は、「大切なのはどこで学んだかということではなく何を学んだかということである」という哲学に基づいている。

合衆国の大学の大きな特徴の一つは、学生にキャンパスにおいて科目を履修すること、すなわちアカデミック・レジデンシー (academic residency) を求めることである。このとき、それらの科目の内容をそれぞれの学生がすでに学んだことがある、あるいは熟知しているなどという個々の事情は考慮されない。換言すれば、伝統的大学では、大学、ひいては教員が何かを教えないかぎり、学生が知識を得ることはない信じられているのである。

* リージェント大学学務担当副学長

** 学位授与機構審査研究部助手

リージェント大学は、この伝統的大学の考え方とは反対の立場をとっている。すなわちリージェント大学では、最も重要視すべきなのは学生の知識であり、同時に、学生は大学の教室に座って授業を受けること以外の方法で自分の知識と能力を示すことができるということを信念としている。したがってリージェント大学の活動は、さまざまな方法を用いて、学生の知識と能力を証明することであるといえる。その際、その知識と能力は質の高いものでなければならない。学生の質の高さによって、設立母体である評議員会¹⁾の名声も高く保たれるのである。

リージェント大学の使命は、次の五点に集約される。すなわち①アクセス、②優秀性、③多様性、④経済性、⑤効率性の五点である。これらおのおのの点について以下に説明する。

①アクセス

アクセスを広げることは、成人学生に対して行うものである。とりわけ、学習に対する意欲を持ちながら、さまざまな障害があったために伝統的な方法のもとで、伝統的な時期、すなわち18歳から22歳までには学位が得られなかった成人学生に、大学教育へのアクセスを拓くことがリージェント大学の使命のひとつである。

②優秀性

優秀性を高めることは、先述したように評議員会の名声を維持するものであり、伝統的大学と同等の質、同等の優秀性を保証するものでもある。したがって、リージェント大学は先述の「アクセス」とこの「優秀性」との間で慎重な綱渡りを演じることになる。すなわち、アクセスの面では柔軟でなければならない、同時に優秀性の面では学問的な質を高く維持しなければならないという背反する二つの課題の間でバランスをとらなければならないのである。

③多様性

多様性を広げるという使命は、リージェント大学が、本来、これまでの歴史の中で高等教育への進学率の低かった成人学生にこそ機会を与えたいという目的を持っていることに由来する。現在合衆国では、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、ネイティブ・アメリカン等の人々は、高等教育において白人と同等の機会を与えられてはいない。この事実を鑑みて、リージェント大学はその使命のひとつに、さまざまな地域出身の人々に機会を与えることによって大学卒業者の多様性を広げることを数えている。

④経済性 ⑤効率性

経済性と効率性を高めるという使命は、リージェント大学が、学生がなるべく経済的負担を回避することを望んでいることに起因する。大学は必要以上の支出をおさえ、学生に提供する学習教材についても、必要最低限の課金をしている。さらに具体的な例をひけば、大学は、学生に、すでに要求された科目を改めて学び直すことを要求しない。このようにして、経済性と効率性が維持されているのである。このことの背景には、合衆国の成人学生の多くが、単に学生であるのみならず、家庭あるいは職場において複数の責任を負っているという現実がある。このため、学費の面での経済性と時間における効率性を高めることは成人学生にとって重要な問題となっている。このことを踏まえて、リージェント大学のプログラムは経済的・効率的なものとなるよう設計されている。

2. 大学の概容

リージェント大学は年間6万人の学生にサービスを行っている。学生の所在は合衆国内と国外に及んでいる。その分布は（表1）に示すとおりである。

（表1） 学生の分布

ニューヨーク州	15.9%
合衆国内（ニューヨーク州を除く）	81.4%
合衆国外	2.7%

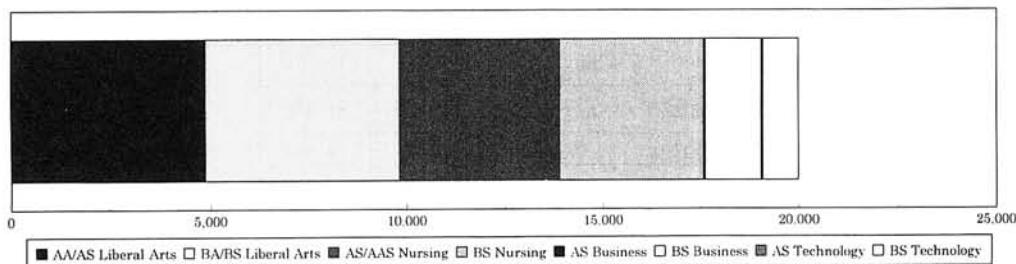
この表に見られるように、学生の約16%はニューヨーク州に居住している。外国に居住する者は3%程度で、81%以上がニューヨーク州以外の合衆国内に居住している。最近の傾向として特筆すべきなのは、外国の学生の割合が大きくなっていることである。彼らは自国の大学において学ぶことが出来ず、かつ合衆国に来ることもできない状況にあって、なおかつ合衆国の大学で学位を得ることを希望している。合衆国の大学の学位が、彼らを徐々に引きつけるようになってきているのである。現在リージェント大学では、諸外国の教育機関と提携して学位を授与するという活動も行っている。提携先は香港、イスラエル、ドバイ、メキシコ、エクアドル、スペインなどで、これら各国においても、合衆国と同様の障壁が、成人学生の高等教育へのアクセスを阻んでいる。リージェント大学はこれら各国の教育機関と提携することによって、外国の成人学生にもアメリカの学位取得の途を開いており、その結果として外国の学生の数は増加傾向を保っている。

ここで、リージェント大学の学生統計の概容を示す。先述のようにリージェント大学は、年間、合衆国内の全州および諸外国出身の成人学生6万人に奉仕しているが、うち年間約9,500人は新たな学位取得プログラムへの参加者である。6万人中それ以外の人数は、他の大学での学位取得または職場での昇進等を目的とした単位取得のために試験を受けた者の数である。学位取得プログラムへの登録者年間9,500人のうち、5,000人以上が学位を取得しており、特に昨年度は過去最高の5,400人に学位を授与した。年間の学位取得率は、平均して70%で、学位取得までに要する期間は平均2年間である。また、学位取得者の38%は直接大学院に進学していることも把握されている。ここでいう大学院とは合衆国の伝統的大学の大学院のことであり、このことからリージェント大学の学位が伝統的大学院で受容され、認知されていることが見て取れよう。進学先の大学院は、10大大学（Big Ten）²⁾やアイビーリーグをはじめとする合衆国内の各大学である。

ここで学生に関するデータに触れておく。学生の平均年齢は39歳である。この平均年齢の高さは、リージェント大学が経験を積んだ成人学生のための大学であることのひとつの証左である。学生の男女比はほぼ同率で、人種的マイノリティの割合は23%である。アフリカ系アメリカ人、ネイティブ・アメリカン、ヒスパニック、アジア系アメリカ人などがこれに当たる。25

年間の歴史を経て、同窓生は約76,000人にのぼっている。リージェント大学が提供するコースは4領域・26コースを数えている。4領域とは経営学、看護学、自由学芸、テクノロジーの各領域で、これら学位授与の実績がある領域はすべて学士課程レベルである。

図 1



これら専門領域における学位の種類ごとの学生の比率は(図1)に示した。(図1)からも明らかのように、自由学芸と看護学の領域に登録している学生数が全学生数の85%以上を占めており、それに対して経営学とテクノロジーの学生数は少ない。ここで、経営学の比率が低いという事実は特筆に値しよう。なぜなら一般的にいて、合衆国の大学において経営学のコースは多くの学生を集めているからである。その中でリージェント大学における経営学の学生の少なさは、学外者の目には奇妙にすら映る点である。しかし、これについては理由がはっきりしている。合衆国では多くの大学で、成人学生のための経営学のコースが設けられており、それらのコースは、夜間あるいは週末のみに集中して開講されるというように、時間の上で成人学生に便宜が図られているのである。この種の、MBA取得コースに代表されるプログラムは、仕事を持つ成人学生の間にも広く浸透している。このようなコースを履修すれば、仕事を持ちながら数か月ごとに週末のスクーリング等に参加して集中講義を受けることによって学位を得られる。

すなわち、経営学については学士課程レベル、大学院レベルとも合衆国ではすでに柔軟なプログラムがすでに数多く用意されているのである。リージェント大学において経営学の学生が少ないという事実の背景にはこのようなアメリカの大学の特徴が見て取れる。

リージェント大学は設立以来25年間、学士課程レベルのサービスのみを行ってきたが、1997年の春からは大学院レベルのプログラムを開始することになっている。これからの25年間は、リージェント大学にとって大学院レベルの教育に主眼をおいた25年間になる事が期待されている。

大学院レベルのプログラムで授与されるのは、自由学芸の修士の学位である。自由学芸とは人文学と社会科学の融合領域であり、批判的思考力と分析力を涵養するものである。この学位は、合衆国内の多くの雇用者が、業界内の競争において優位に立つためには従業員の思考力を高めるべきだと感じているという事実を背景に、ビジネス社会で広く求められている学位でもある。すなわち、企業において、従業員は問題解決と批判的思考の能力を求められているので

ある。そして、自由学芸のような大学院レベルのプログラムは、彼らの思考力の面でのスキルアップを援助できるように設計されている。

3. 学 生

リージェント大学の学生は、他の伝統的大学の学生に比してその特性において多様である。学位取得プログラムに登録している学生の特徴について箇条書きに述べると下記のようになる。

- 平均年齢39歳
- 家庭をもっている
- フルタイムの職業をもっている（全学生の約85%）
- 経済的に自立している
- かつて大学に入学し、その後やめている
- 頻繁に転居する（76,000人の同窓生、6,000人の新規参加者のうち、年間50,000人が住所変更を通知）
- 頻繁に旅行する（学生の約25%は兵役にあって、頻繁に配置転換されている）
- 最初に学んだこととは別の分野で学んでいる
- 障害をもっている学生が多い
- 直後の大学院入学のために学士号を取得する必要がある
- 労働環境を変えるために学位を完成する必要がある
 - 転職のため
 - 昇進のため
 - 昇給のため
 - 再就職のため
- 満足を得るため、自己の向上のために学位を完成させようとしている

リージェント大学の学生の特徴は上記のようなものであるが、彼ら成人学生が学外学位授与機関であるリージェント大学を選んだ背景には、合衆国の伝統的高等教育システムに、ある種の障壁があることが見て取れる。伝統的大学で成人学生が直面する障壁は次のようなものである。

- 居住地に大学がない
- 居住地の大学のアクセス度が低い
 - 地理的に遠い
 - 設備が整っていない
 - 授業スケジュールが合わない
 - 学費が高い
- 居住地の大学の課程が限られている
 - 学びたい課程が設置されていない

前期課程の授業しか受けられない（コミュニティ・カレッジ等）

編入できる課程がない

- 居住地の大学の制度に制約される

編入での単位認定に限度が設けられている

出席が求められる（在学要件（residency requirement）が科されている）

大学外での学習（OJT、地域での学習、兵役等）を評価するメカニズムがない

編入による単位認定を認めていない

これら種々の障壁の存在が、多くの成人学生をしてリージェント大学を選ばせるのである。

次に、リージェント大学で学位を得る動機についての調査結果に触れる。（表2）に示したように、3分の1が大学院進学のためと回答し、また3分の1強が現在の仕事を確保するためと回答している。新たな仕事（carrier）を得るためとしたのが40%弱、そして約3分の2が自己の向上のためとしている。すなわち、学生たちがリージェント大学に参加する上で最も強い動機は自己の向上を求めることであることが見て取れるのである。

（表2）リージェント大学への参加の動機

大学院進学	29.9%
現在の仕事の確保	35.8%
新しい仕事の獲得	38.6%
昇進	49.9%
自己の向上	67.5%

（注：複数回答可）

このように、リージェント大学の学生の多様性と伝統的大学における障壁および学生のモチベーションについて同時に概観すれば、合衆国の成人学生に対して非伝統的高等教育機関が果している役割の大きさが推察されるであろう。

ここまで、リージェント大学の概容と学生のプロフィールについて紹介してきた。次に、学外学位を授与する仕組みについて概説する。

4. 学務規則と実践

リージェント大学の学務規則は、合衆国内のあらゆる伝統的大学の学務規則とは異なったものである。次にその3つの大きな特徴を挙げてゆく。

まず第一は、レジデンシーを課さないということである。

ここでいうレジデンシーとは、在住要件（geographic residency）と出席要件（academic residency）の双方を指す。合衆国の大学が提供している学外学位プログラムのなかには、対象とする学生を、大学の立地周辺の地域、大学のある州ないしは合衆国内の在住者に限定するケ

ースがみられる。また、前述したように学外学位プログラムとはいえ、学生が一定の時間数ないし期間内で、大学の教室ないし大学が指定する学習センター等で行われる講義に出席することを求める大学もある。リージェント大学では、学生にそれらの要件を課していない。すなわち学生が、リージェント大学で学習して単位を履修するというのではないのである。

また、リージェント大学の学位取得要件は柔軟かつ包括的であるという特性を持っている。このためこの大学に参加し、単位を積み重ねて学位を得る学生それぞれの背景は多様性に富んでいる。

さらにリージェント大学では、学生のクレジット取得方法として、伝統的な方法も非伝統的な方法も共に認めている。

これら3点が、リージェント大学を他の大学とは違った種類の大学として特徴づけているのである。この独特の学務規定は、冒頭で述べたリージェント大学の理念でもある「大切なのはどこで学んだかということではなく何を学んだかということである」という哲学に基づくものである。リージェント大学のすべての活動は、この哲学に基づいている。

このような考え方を基礎に、リージェント大学では実際にどのような活動が行われているのか、次に詳細に見ることにする。

リージェント大学の実務の内容は以下の5点に集約される。

1. 大学レベルの学習の直接評価
2. 他機関による学習評価の認定
3. 学習指導
4. 独学成人学生のための学習ガイド
5. 遠隔教育機会の教育的周旋

1の評価についてはこのあと1項を設けて解説する。

2の他機関による学習評価の認定とは、全国的に認められた枠組みに沿った他機関による学生の直接評価の認定である。

3の学習指導に関して、リージェント大学はその長い経験から、合衆国の成人学生に対する学習指導における主導的な立場にあるといえる。

4の学習ガイドは、リージェント大学が独学する成人学生のために行っているものである。この業務については後に詳述する。

5の教育機会の周旋というものは、すなわち遠隔教育機会の周旋である。遠隔教育での科目履修を希望する学生は、大学に相談して、他大学が開設している遠隔教育の所在、内容、履修方法等の情報を得ることができる。この意味で、リージェント大学はある種の教育的周旋業を営んでいるといえる。

以上、リージェント大学を非伝統的高等教育機関たらしめている学務規則と業務内容を紹介した。

5. 学習ガイド

前項で、リージェント大学の実践の一環として、学習ガイドに触れた。ここでは一項を設けてその内容を簡単に紹介しておきたい。

リージェント大学の使命は、学生があらゆる状況に対する適応力と深い洞察力を備えた、自立した生涯学習者となり、自らの学習コミュニティを形成できるように指導することである。その使命を果たすために、リージェント大学は次の3分野で学習サービスを提供している。

1. 学習のために必要な技術の獲得
2. リージェント大学のシステムの利用法の学習
3. 評価を受けるべき内容の学習

リージェント大学の学習ガイドは、この3分野における学習において、学習者の理解を明確にし、不安を払拭するとともに、学習者が効率的に学習できるようにすることを目的としている。

この、学習ガイドの実践を支えている概念は「ひとつの『学習コミュニティ』としてのリージェント大学」というメタファーである。このメタファーにおいて、リージェント大学という学習コミュニティはひとつのネットワークである。このネットワークによって、学生は、それぞれの学習経験と教育目標を達成する能力の質に影響する（教育的・社会的・経済的・制度的等の）資源と支援を、直接的にも遠隔的にも得ることができるのである。

では、この学習ガイドの具体的内容はどのようなものか、次に示す。

学習ガイドでは、大別して以下のような活動を行っている。

- 学習すべき内容を特定する

リージェント大学に登録したばかりの学生のなかには、なにを学ぶところから始めればよいのかを充分自覚していない者もいる。そのような学生に対して学習内容を指導する。

- 学習資源へと学生を導く

前項で述べた、遠隔教育機会の情報提供という「教育的周旋」がこれにあたる。

- 学習戦略を提案する

先述のように学生の特性は多様である。個々の学生に見合った戦略が必要とされる。

- 学習を組織立てる

リージェント大学の試験は、個々の学生が履修した学課に対応する試験ではなく、ある分野において要求される総合的な知識を問うものである。したがって一人ひとりの学生は、自分の学習内容が、総合的な知識を形成するものであるか確認する必要がある。大学はそこに助力を与えるのである。

- 学習成果を評価する

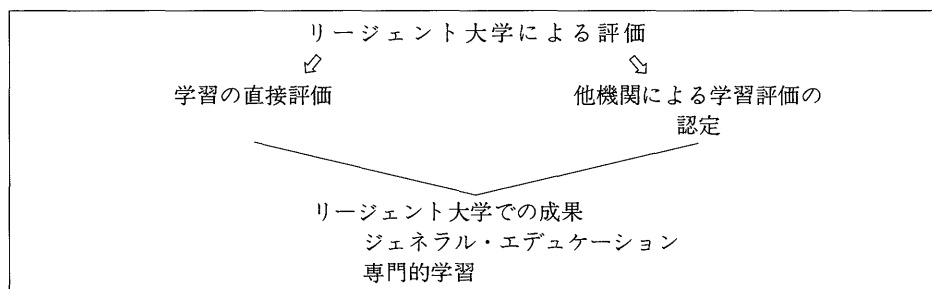
これについては次項に詳述する。

リージェント大学ではこのようなきめの細かい情報提供、指導をとおして、独りで学んでいる成人学生の支援に努めている。

6. 学習の評価

ここでは、前項でリージェント大学の業務の一つとして挙げた学習の評価について詳説する。本大学では、図2に示したように、学生の学習に対する直接評価direct assessmentと、他機関による学習評価の認定recognitionを行っている。これら直接評価と評価の認定はどちらも評価であることには変わりはない。ここではこれら二つの評価について詳しく述べてゆく。

図2 学習評価の概要



6-1. 直接評価

リージェント大学では、学位取得プログラムに属する学生には、ジェネラル・エデュケーションの科目の履修を要件として課している。ジェネラル・エデュケーションでは、人文、社会科学、自然科学、数学、大学レベルの英作文の各コースの履修が求められる。大学が、すべての学生に対して求める達成すべき到達度は明示されていて、大学はそれに基づいて学習の成果を評価する。さらに、個々の学位取得コースごとに、学生が満たすべき学習成果が示されている。

このように、大学全体と、そして学位の種類ごとに評価の基準が定められており、個々の学生はその基準に沿って作られた評価のためのマテリアルに基づいて評価される。ただし、ここで大学が問題にしようとしているのは学生がその基準を満たしているかということのみであって、どのような手段によって基準を満たしたかは問われない。

さて、このリージェント大学による直接評価には2種類ある。一つは柔軟な評価方法と呼ばれており、もう一つは標準化された評価方法と呼ばれている。

柔軟な評価方法は、リージェント大学が、グループではなく個人で学習する学生のために設計されたものである。この評価には大まかに言って次に挙げる3種類の方法がある。

1. 特別評価
2. ポートフォリオに基づく評価
3. 評価によるクレジット認定

1の特別評価では一人の学生に対して二人の教員が評価を担当する。この教員は、リージェント大学の委嘱を受けた、外部の大学にフルタイムで勤務する者であり、該当の学生が評価を得ようとしている分野の専門家である。この二人の教員が、一人の学生を試験して評価を与え

るのが特別評価である。特別評価には通常一日かかる。この試験では、教員は学生の知識をはかり、その知識を評価してクレジットに換算し、適切な数のクレジットの授与を大学に答申する。この方法で取得されるクレジット数は、平均して30クレジットである。また、この特別評価によってこれまで最も多くのクレジット数を取得した学生は、一度に90クレジットを得た。

2のポートフォリオに基づいた評価は、学習者が自らの知識を記したものをまとめてポートフォリオとして提出し、それに基づいて行う評価である。ポートフォリオを受け取った教員は、その内容が真に学問的なものであるか、大学レベルの学習の成果であるかを審査する。この方法は1の特別評価とは異なり、口頭での試験はなく書かれたものに基づく評価である。

3の評価によるクレジット認定は、エンパイア・ステイト大学(Empire State College)³⁾との合作で行われているものである。ここでは学生が学習申告書をファカルティに提出して今後の学習目標を明らかにする。教員は提出された申告書に沿って試験を行い、学習の成果評価するというものである。ただしこの方法は、ここに挙げた3種類の方法のなかでは最も利用される頻度が低い。

これらが、個人を対象とした柔軟な評価方法の内容である。

リージェント大学では、集団化された学生を対象とした標準化された評価方法も採用している。次にその評価方法について述べる。

リージェント大学は、合衆国で唯一の、大学であると同時に全米テスト機関(National Testing Agency)でもある機関である。この事実がなにを意味するかというと、リージェント大学による試験・評価はETSやACEなどといった全米規模で行われる試験と同様に、合衆国全土から集まった高等教育の教員によって検討・作成されているということである。リージェント大学の試験は、したがって単に地方の一大学が行う試験以上の正当性を持っているといえる。また試験の内容・方法は常に全米レベルの委員会によってつねに検討されている。おのおのの試験問題は、合衆国の大学生の平均レベルの知力を持った参照グループがまず受験し、その結果によって実際の試験の際の評価の基準が決められている。

このような柔軟な評価方法に対して、標準化された評価方法には筆記試験と実技試験がある。

筆記試験には択一試験と小論文の別があり、すべての試験結果は先に述べた参照グループの成績を基準に評価される。この評価を行うのは学務担当副学長ではなく、おのおのの専門分野ごとに組織された専門家による委員会である。この、標準参照法により、リージェント大学の試験は全米の大学の基準に照らして、それと互することのできる質を維持している。

実技試験は看護学のプログラムのなかで用いられる。リージェント大学は、看護学では過去の学位授与数において全米第一の規模のプログラムを有し、また実技試験でも主導的な立場にある。実技試験の内容は病院の現場での実技考査とシミュレーションである。現場での実技考査は実際の病人を相手に看護の実技について3日間かけて試験を行う。実技考査では標準参照法ではなく、定められた基準を満たすかどうかを評価する。医療産業では偏差値の高低を問うのではなく、求められる基準を満たすことが重要だからである。シミュレーションにはライブとビデオの別があり、ライブのシミュレーションでは患者役の人物を相手に健康診断を行うと

いうものである。ビデオのシミュレーションでは、録画された看護の課程を見た上でそれについての質問に答えるというものである。

以上が、リージェント大学による直接評価の概要である。

6-2. 他機関による評価の認定

次に、他機関による評価の認定について解説する。他機関による評価の認定には次に示すように3種類ある。これらはすべて全米規模で認定されている評価を基にするものである。

1. アメリカ教育協議会（ACE）プログラム
2. アク্রেディテーションを受けた機関で取得されたクレジットの認定
3. 特別プログラム

1. に挙げたACEは全米のすべての大学の学長によって組織された協議会で、ワシントンに本部を置いて多様な活動を行っている。それらの活動のうちの一つに、ファカルティ・メンバーから構成される委員会は、様々な組織的教育の場に派遣してその内容を検討・審査し、そこでの学習を大学のクレジットに換算するというものがある。この対象として主なものは軍隊教育、企業内教育などの非大学教育認定プログラム（PONSI）および専門職集団が提供する試験である。このような手段を経て取得されたクレジットを、リージェント大学では学位取得のための単位として参入を認めている。

2. のアクレディテーションを受けた機関で取得されたクレジットの認定とは、合衆国内の6つの自発的な地域アクレディテーションセンターから教育の質を保証されてアクレディテーションを受けた大学で取得されたクレジットの算入を認めるということである。もっとも、これらのクレジットの取得方法自体、次に挙げるような多様性がある。

1. 伝統的大学のキャンパスで受けた授業
2. 多様なメディアを通して受けた遠隔授業
 - 印刷教材を基にした授業
 - ビデオ授業
 - テレビ授業
 - コンピュータ通信授業
 - 衛星通信授業
3. 試験プログラムによるクレジット
4. ポートフォリオに基づく評価

以上の諸種の方法で取得されたクレジットは、すべて算入が認められる。ただし、リージェント大学が算入を認めるのはアクレディテーションを受けた機関で取得されたクレジットのみであって、それ以外の大学等の機関が授与したクレジットは認定を拒否されている。

さらに、3. の特別プログラムの内容は次のようなものである。

- 国際的クレジット評価機関で認定された世界の大学の授業の認定
- エルサレム・ヘブライ大学での試験

- FAA (Federal Aviation Administration) 免許
- 内科医師助手試験
- 海軍原子力学校

以上、他機関による評価の認定について概観した。

この項で見てきたように、リージェント大学では2種類の評価方法を通して、様々な手段で取得されたクレジットを積み上げての学位取得の途を開いているのである。

7. 登録から学位取得まで

リージェント大学の学位取得プログラムへの登録(enrollment)から学位取得までの道のりは図3に示した。専門分野、学位の種類の違いに拘わらず、すべての学位取得の手順はこのフローチャートに集約される。

ただし、登録から学位取得までにかかる期間は、専門分野や学位の種類の違いによって多様である。表3は、学位取得プログラムへの登録から学位取得までにかかる平均期間を専門分野と学位の種類別に示したものである。

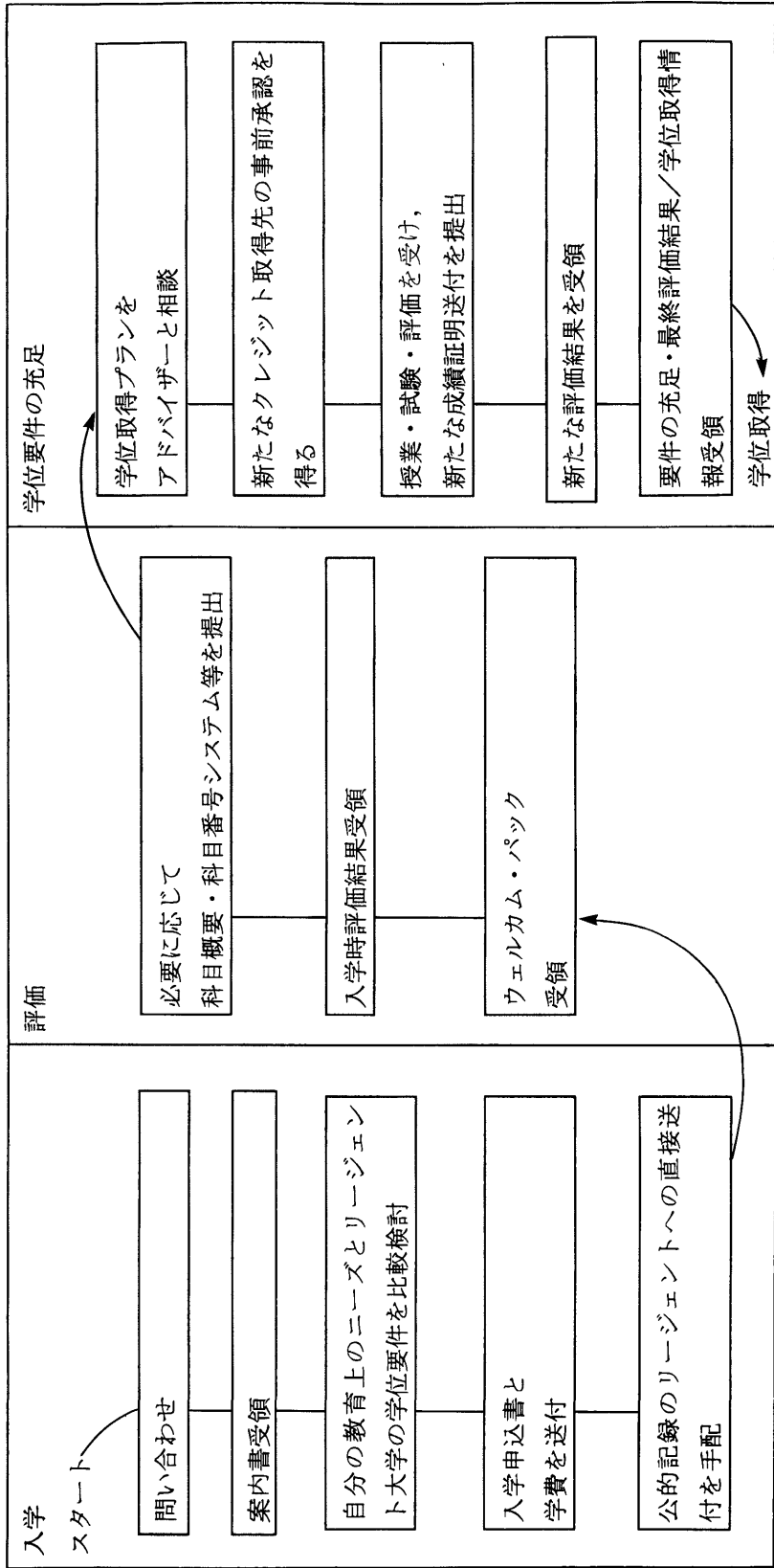
表3 学位取得までの期間

学位の種類（専門分野）	期間（年）
学芸準学士・科学準学士	0.8
準学士（看護学）	1.5
科学準学士（経営学）	2.5
科学準学士（テクノロジー）	1.8
学芸学士・科学学士	1.1
科学学士（看護学）	3.6
科学学士（経営学）	1.9
科学学士（テクノロジー）	2.5

表3からも明らかなように、学位取得までの期間は1年以下から4年近くまでの多様性がある。リージェント大学の学位取得プログラム中、取得までの平均期間が最も短いものは学芸準学士・科学準学士の0.8年であり、反対に最も長いものは、科学学士（看護学）の3.6年である。看護学における学士の取得までの期間が長い理由としては、本論6の学習の評価の項でも述べたように、看護学ではリージェント大学が行う実技試験の受験が要求されており、その受験・合格に時間がかかることが挙げられる。

卒業すなわち学位授与は評議委員会が休暇を取る8月を除き、毎月行われている⁴⁾。

図3 学位取得までの道のり



8. リージェント大学ファカルティ

最後に、ここまで紹介してきたリージェント大学での学習指導、評価をはじめとする業務を担当しているファカルティについて触れておきたい。図4には、大学の組織図を示した。図中、「学務担当副学長」をいただくセクションがファカルティである。

リージェント大学のファカルティは、大学が委嘱したニューヨークおよび他州の大学の教員と実業界の人々からなっている。ファカルティは経営学、電気・電子・コンピュータテクノロジー、自由学芸、原子力テクノロジー、看護学の5つの学位分野ごとに形成されている。これら各分野ごとに、リージェント大学に本属の教員としてフルタイムで勤務する学部長が運営にあたっている。

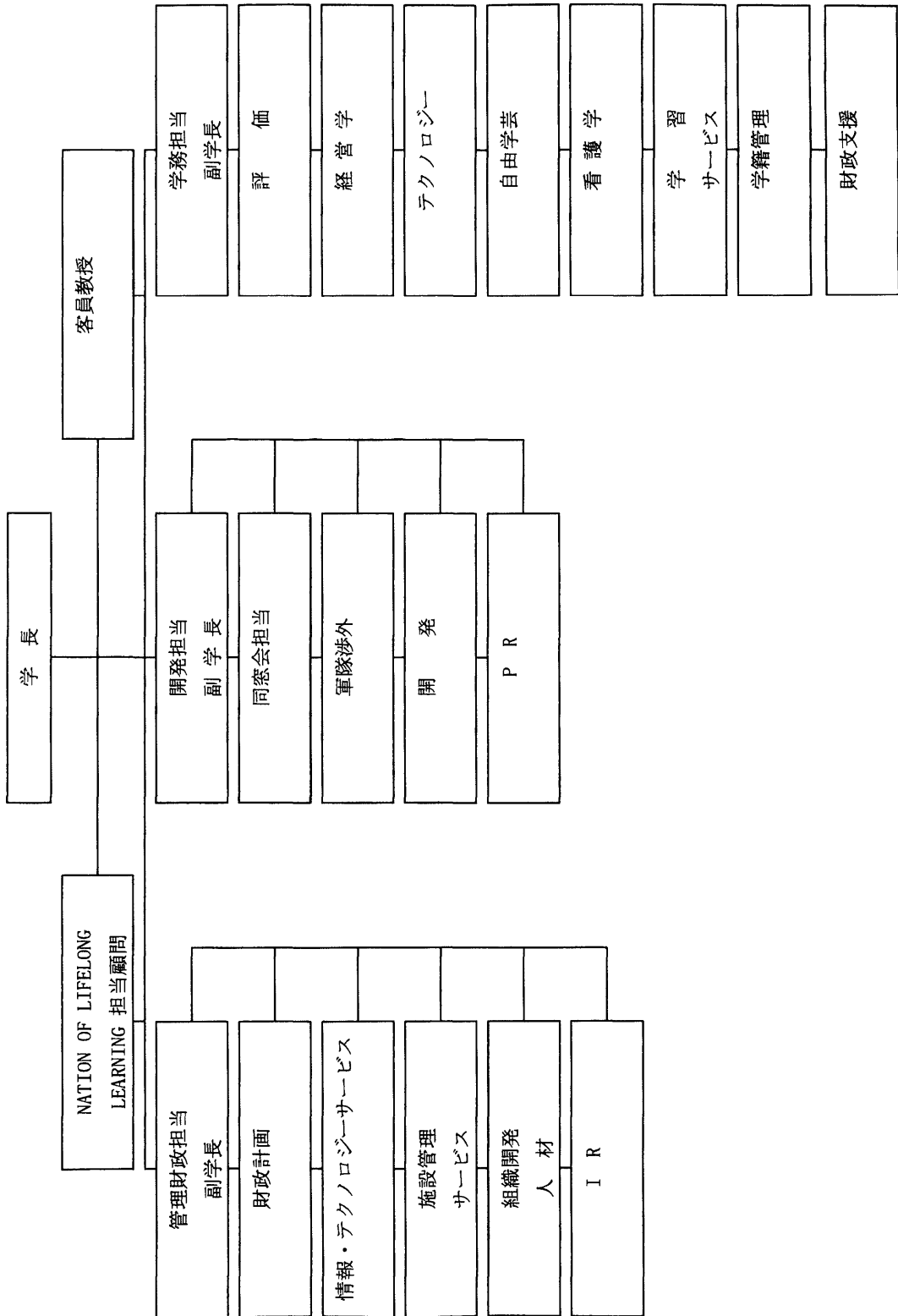
また先にも触れたが、全米の大学の教員に委嘱して43の試験委員会を形成している。このような外部の人材への委嘱は、プロフェッサー、アシスタントプロフェッサーなどの、通常、大学にあるランク付けを行わずに5年間連続する。教員は、年数回のリージェント大学キャンパスにおける会議に出席し、そのほか必要に応じて、学部長との通信により業務を遂行している。

このように、学習の評価等、実際の活動の大部分は外部の人材に委嘱して行っているため、結果的に、リージェント大学は毎年300人以上の教員による貢献を受けていることになる。もっとも、反対にリージェント大学のファカルティとして委嘱を受けたために「学習成果の評価」に対してより多くの知識を得る教員がいるということも事実である。

註

- 1) 評議員会はニューヨーク州教育評議会に属する公的機関であるが、リージェント大学はこの評議委員会によって運営される私立大学として分類されている。
- 2) 10大大学 (Big Ten universities) は、10大大学と呼ばれているが現在は11大学から構成されている、学生スポーツを中心としたリーグである。構成大学は以下の通り。University of Illinois, Indiana University, University of Iowa, University of Michigan, Michigan State University, University of Minnesota, Northwestern University, Ohio State University, Pennsylvania State University, Purdue University, University of Wisconsin-Madison
- 3) エンパイア・ステイト大学はリージェント大学と同じニューヨーク州教育評議会に属する大学で、強力な非伝統的高等教育セクションを持つことで知られている。
- 4) 伝統的大学の卒業式に匹敵する学位授与のセレモニーは、主として前年度の学位取得者を対象に毎年7月に行われる。

図4 リーゼント大学組織図



{ABSTRACT}

The Work of Regents College

Paula E. Peinovich*

trans. by Rie Mori**

This article is a draft from a presentation by Dr. Peinovich in Japan on the system of Regents College, with some notes by Mori. As an authentic external degree granting college in United States, Regents College has a policy that places more emphasis on what learners know than where they learned it. This statement shows the basic philosophy of activities of this college. In this presentation the structure of faculties and students, the system of evaluation, and the result of student surveys by Regents College were shown.

Regents College, started to grant external degrees in 1970, now has 20,000 students involved in its degree programs of four fields as Liberal Arts, Nursing, Technology and Business. Under the philosophy shown above, this college works to accomplish its mission in increasing students' access, excellence, diversity, economy and efficiency in higher education as an institute designed for working adults.

In this circumstance, students in Regents College show their characteristics in their age structure (39 years old on average), as they have family and job responsibility, move or travel frequently, some with physical disability, and so on. These characteristics could easily be barriers that prevent them from studying in traditional colleges and universities which requires residency, or set up ceilings to the amount of credits students may obtain transferring from other institutions for getting degrees.

Regents College is free from such kind of barriers. But this does not mean that Regents is an easy going college. It provides a series of rigid system of assessment. The administration has two kinds of systems of assessment: one is direct assessment and the other is recognition of assessment which is done by other accredited higher educational institutes. This procedure of assessment is carried out by 300 senior faculty members from other colleges and universities who work for Regents College.

According to the surveys, many students who earned bachelor degrees from the college goes directly to graduate schools in traditional universities. This may be one proof of the quality of the degree of this college.

* Vice President for Academic Affairs, Regents College

** Research Fellow, National Institution for Academic Degrees